

# 2023年度 第1四半期 決算概要

長瀬産業株式会社 (証券コード:8012)

2023年8月3日

# Delivering next.

「次」って、未来への接続詞。

# 目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 通期業績見通し	P14~P15
■ 株主還元状況	P16

# 連結損益計算書

- ▶ 売上総利益：円安により売上高は増加したが、一部の製造子会社の収益性の低下等により売上総利益率が低下し、売上総利益が減益
- ▶ 営業利益：売上総利益の減少に加え、人件費等の一般管理費の増加やPrinovaグループの収益性の低下等により、減益
- ▶ 四半期純利益：営業利益の減少に加え、支払利息の増加や投資有価証券評価損の増加等により、四半期純利益も減益

(単位:億円)

	2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	2,195	2,240	+ 44	102%	9,580	23%
売上総利益	399	387	△ 11	97%	1,710	23%
<利益率>	18.2%	17.3%	△0.9ppt	—	17.8%	—
販売費及び 一般管理費	290	317	+ 27	109%	1,365	—
営業利益	108	69	△ 39	64%	345	20%
経常利益	115	73	△ 42	64%	326	23%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	79	43	△ 36	55%	240	18%
US\$レート (期中平均)	@ 129.7	@ 137.5	@ 7.8 円安		@ 135.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.6	@ 19.6	@ 0.0 円高		@ 20.0	

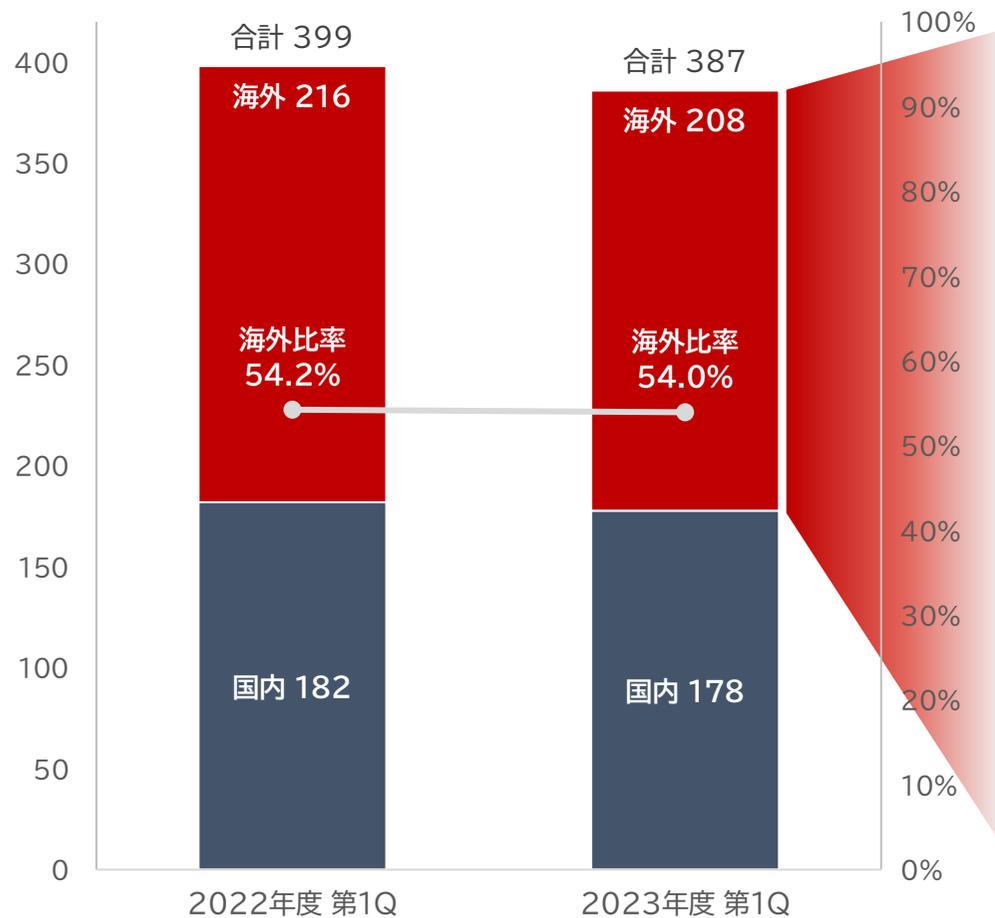
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2022年度 第1Q -651億円 2023年度 第1Q -635億円

※ 為替の影響【売上総利益】+14億円【営業利益】+1億円

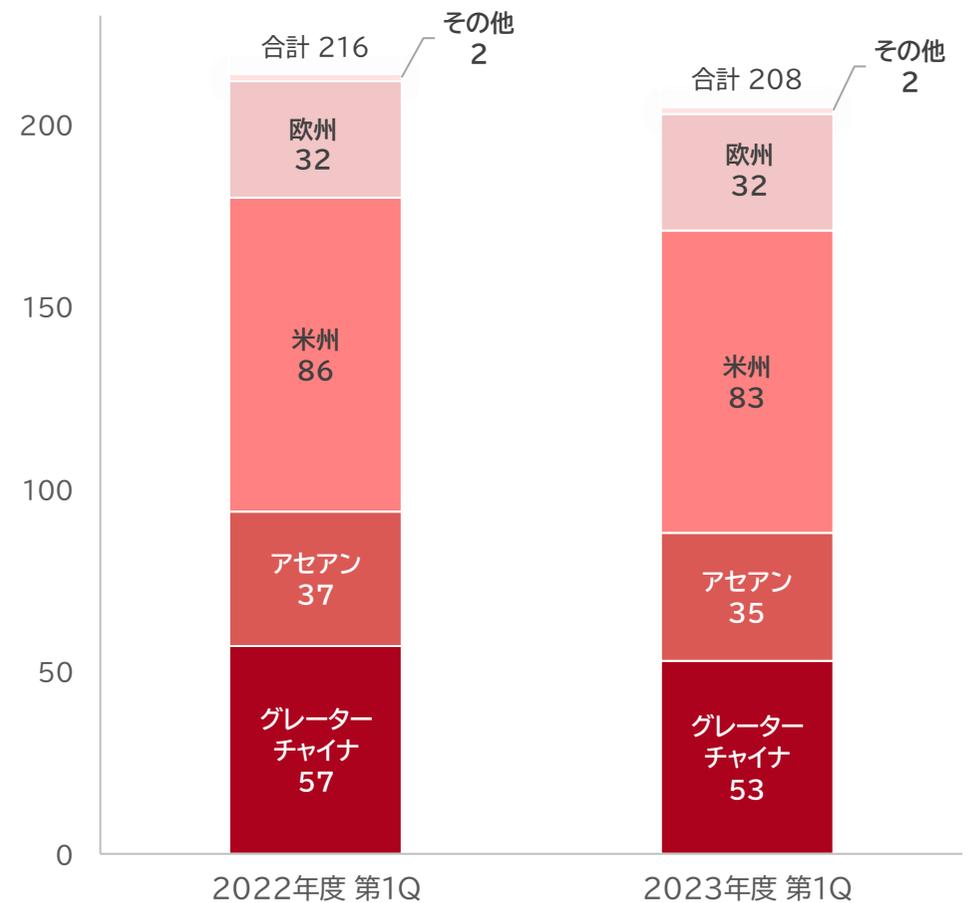
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに減益
- ▶ 国内は香粧品関連等の事業は好調に推移したが、主に半導体関連等の電子業界向けへの原料販売等の低調により、全体として減益
- ▶ 海外は円安による利益の増加はあったものの、景気減速の影響を受けてPrinovaグループのビジネスや樹脂販売が低調に推移し、減益

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）

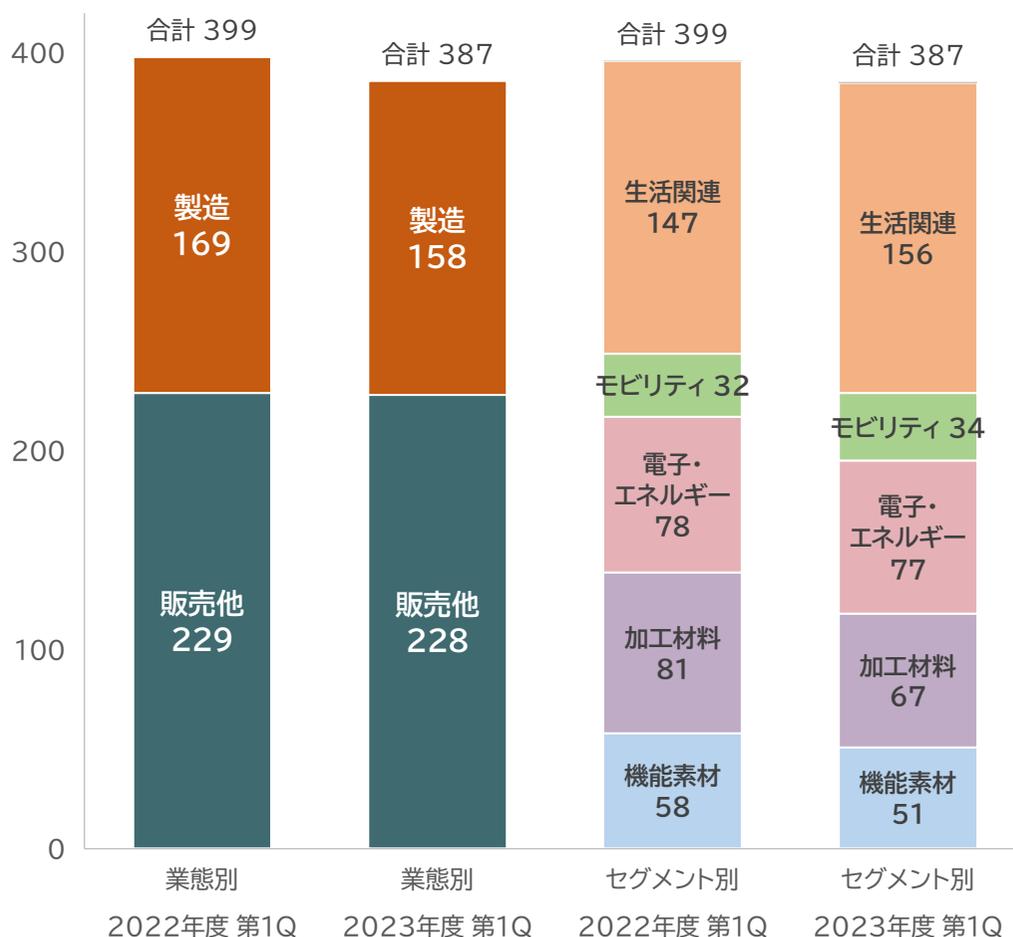


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

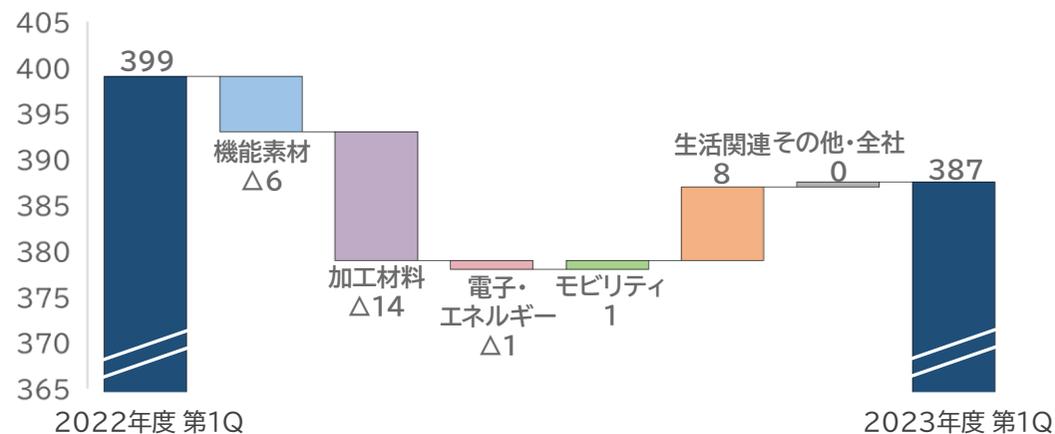
# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料原料の販売や半導体関連等の電子業界向けの原料販売が減少
- ▶ 加工材料はOA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売が需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により減少
- ▶ 生活関連は林原のAA2G<sup>®</sup>等の香粧品素材の販売が増加

## 業態・セグメント別売上総利益 (億円)



## セグメント別売上総利益増減 (億円)



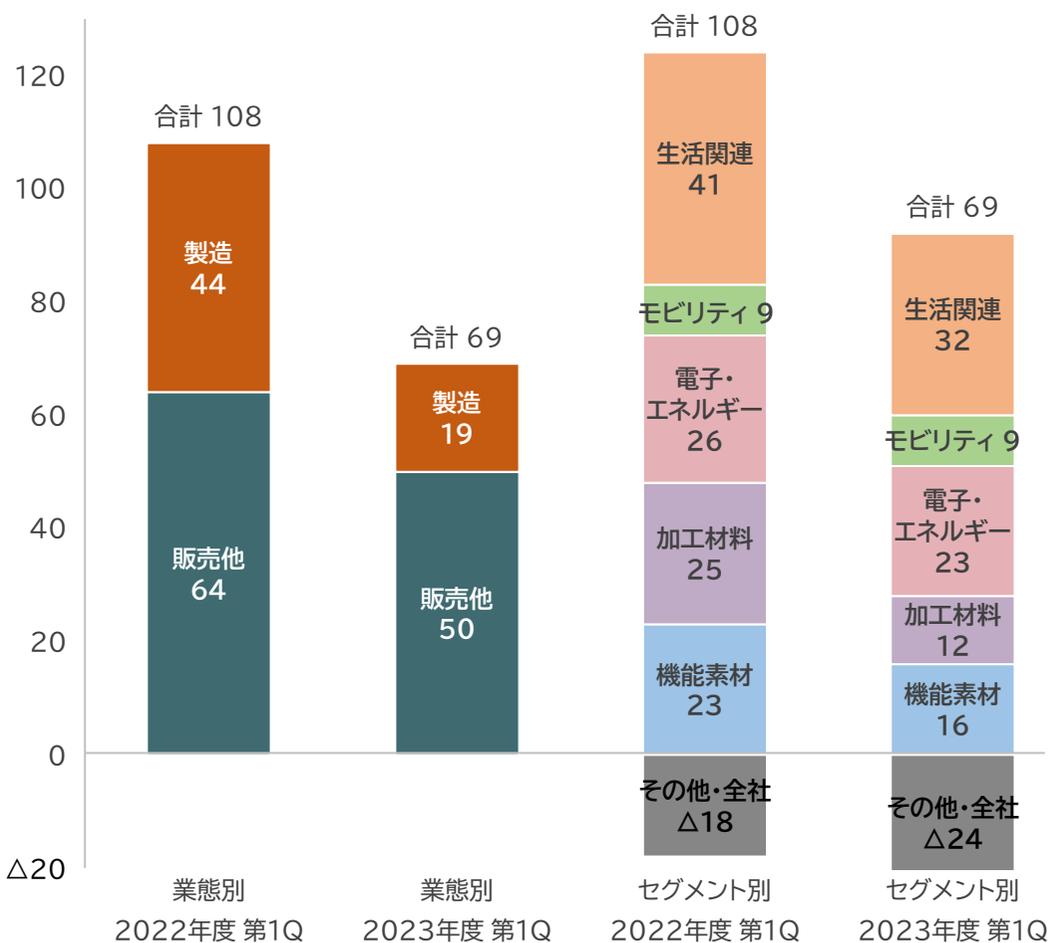
## 売上総利益 四半期推移 (億円)



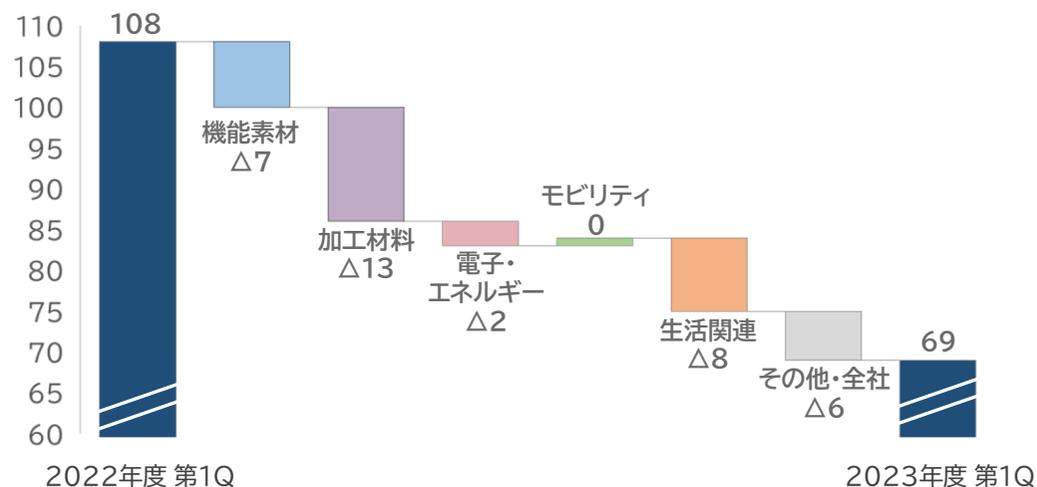
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 機能素材、加工材料は売上総利益の減少を受け、営業利益も減益
- ▶ 生活関連は売上総利益は増加したが、Prinovaグループの収益性の低下や人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、営業利益は減益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

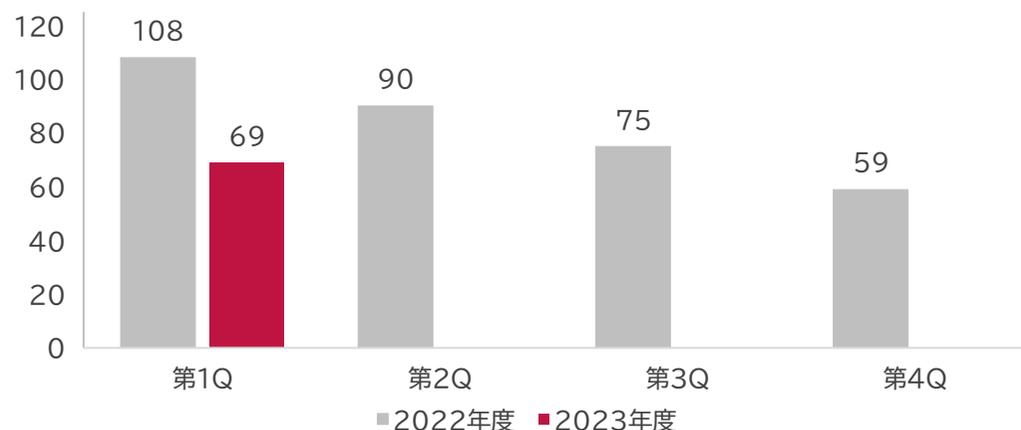
## 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



## セグメント別 営業利益 増減 (億円)



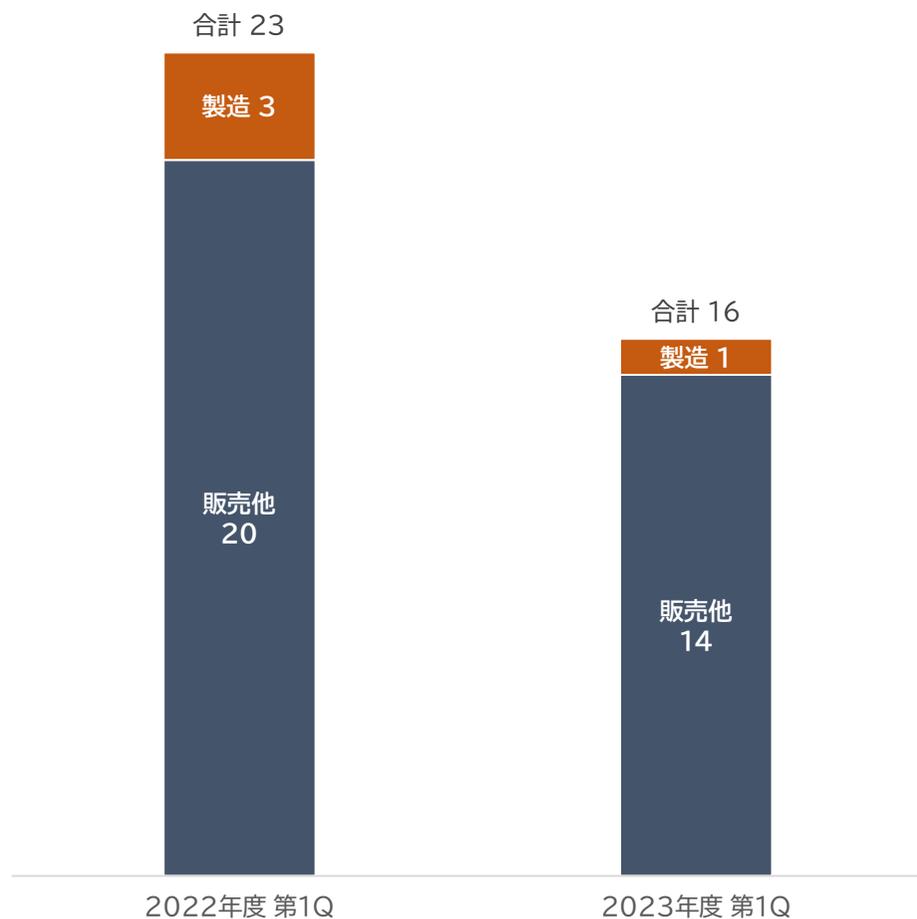
## 営業利益 四半期推移 (億円)



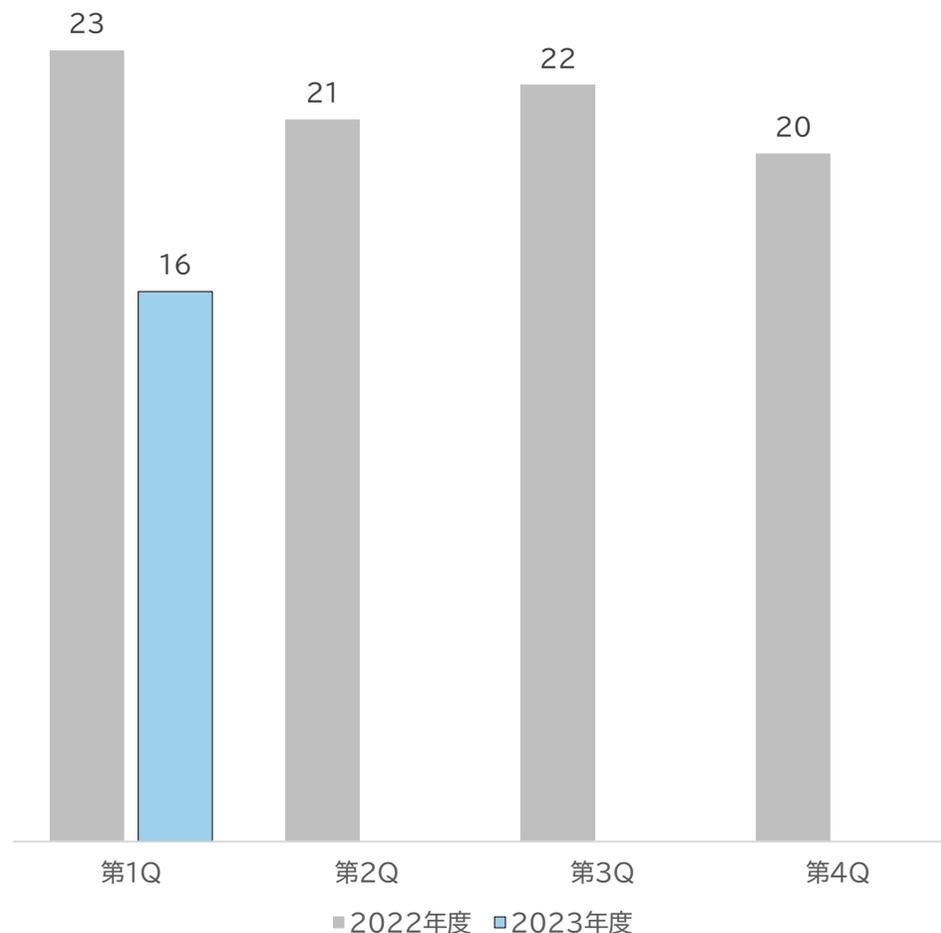
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車業界等向けの塗料原料の販売が減少
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売、加工油剤・樹脂関連の原料販売が減少
- ▶ 顧客の在庫調整の影響もあり全体として低調に推移した結果、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）

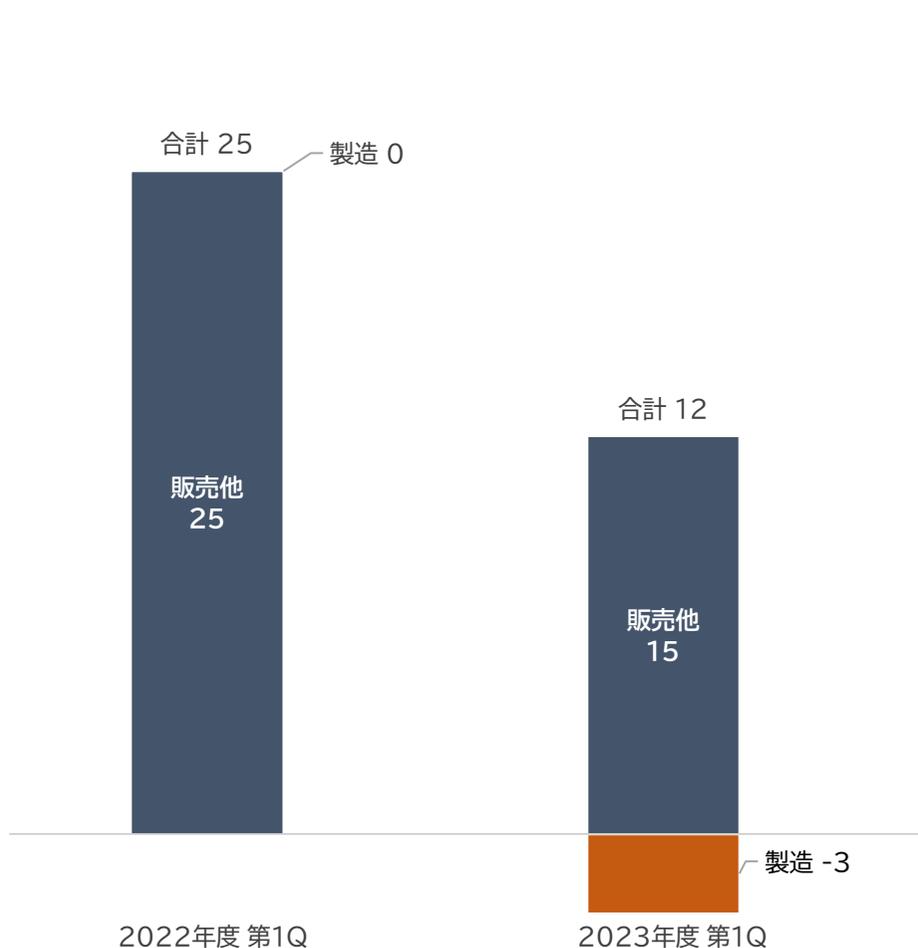


■ 2022年度 ■ 2023年度

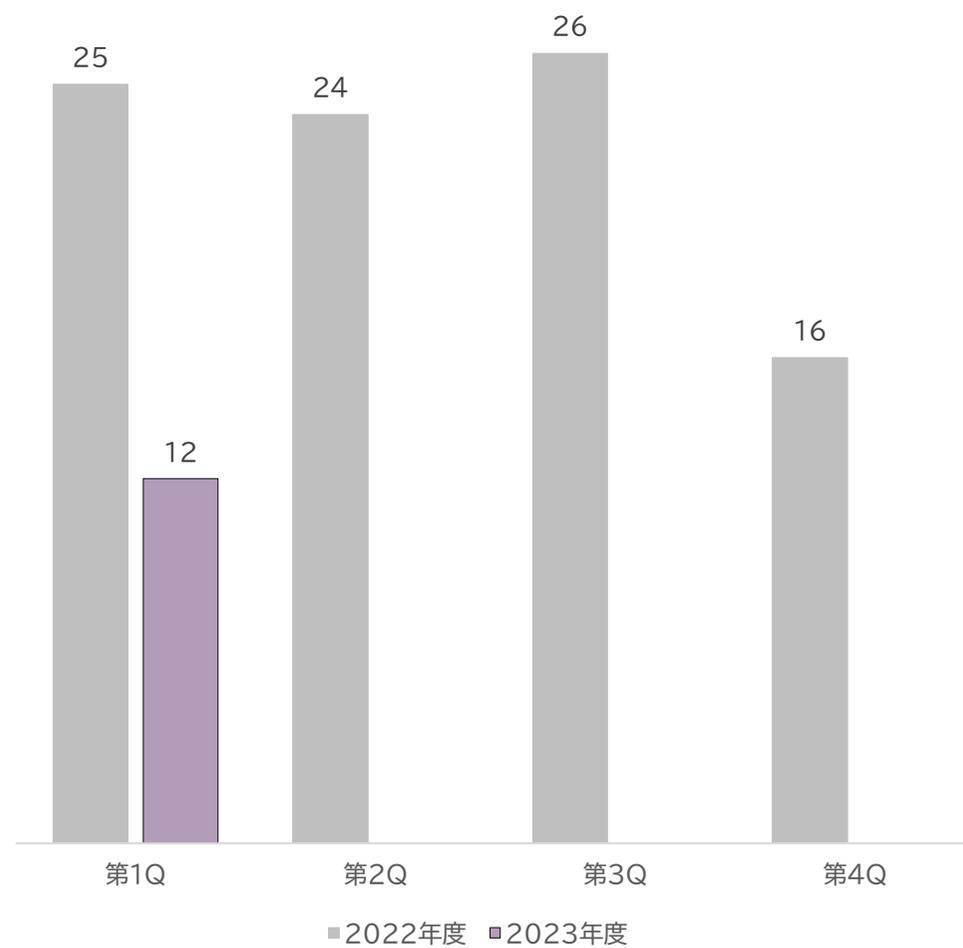
# セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ OA・ゲーム機器業界等への樹脂販売は需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により、減少
- ▶ 情報印刷関連材料は製造業の収益性が低下し、販売も減少
- ▶ 樹脂販売の減少、製造業の収益性の低下により商社業、製造業ともに低調に推移し、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



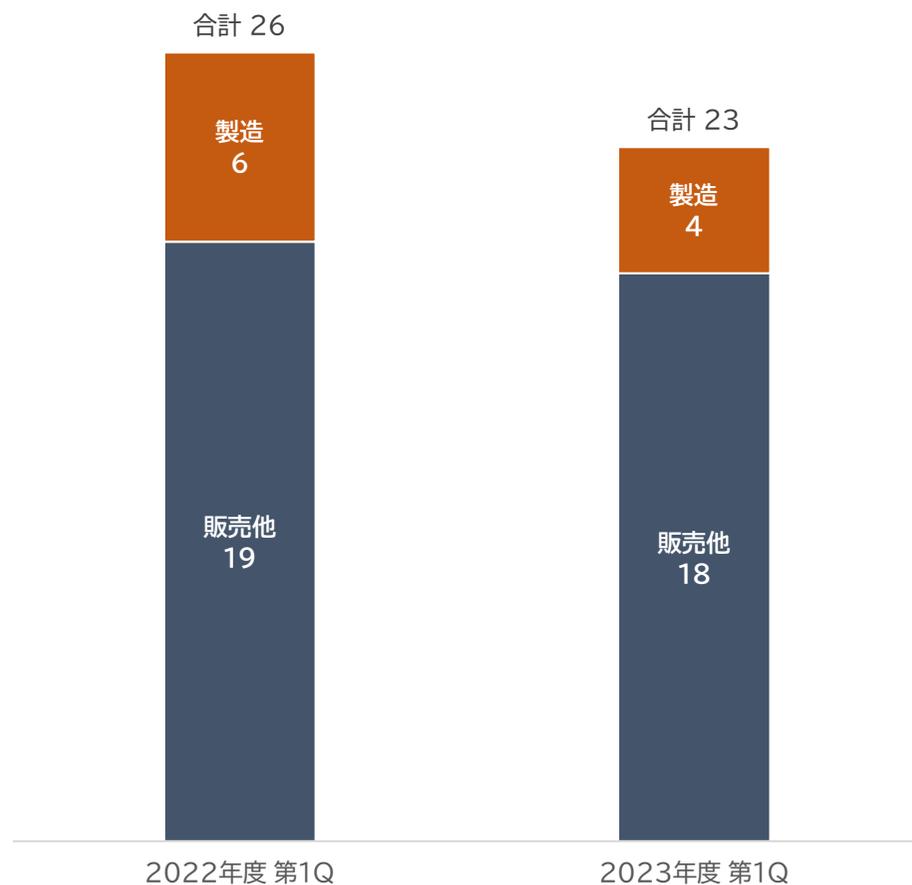
## 営業利益 四半期推移（億円）



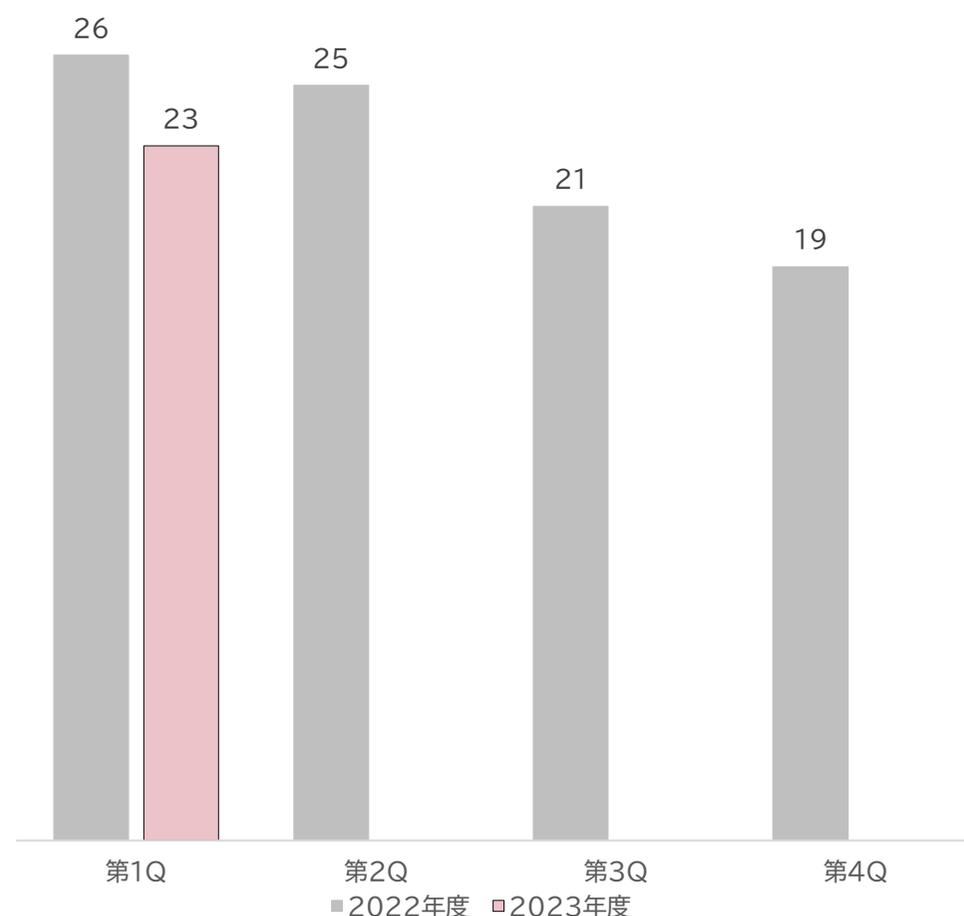
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体市況の悪化はあるものの、商材の拡充により半導体業界向け材料販売が増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連の販売はサーバー用途向けが増加したが、モバイル機器用途の半導体・電子部品関連が減少し、全体として減少
- ▶ 全体としては、変性エポキシ樹脂関連の販売低調の影響が大きく、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益 (億円)



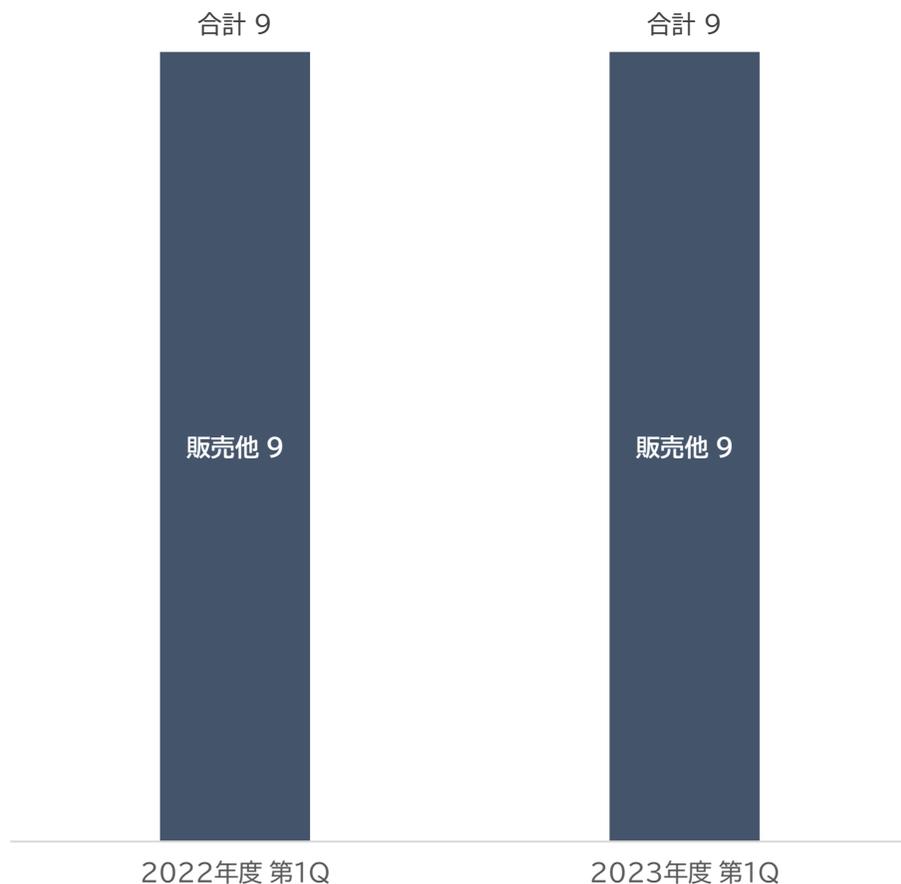
## 営業利益 四半期推移 (億円)



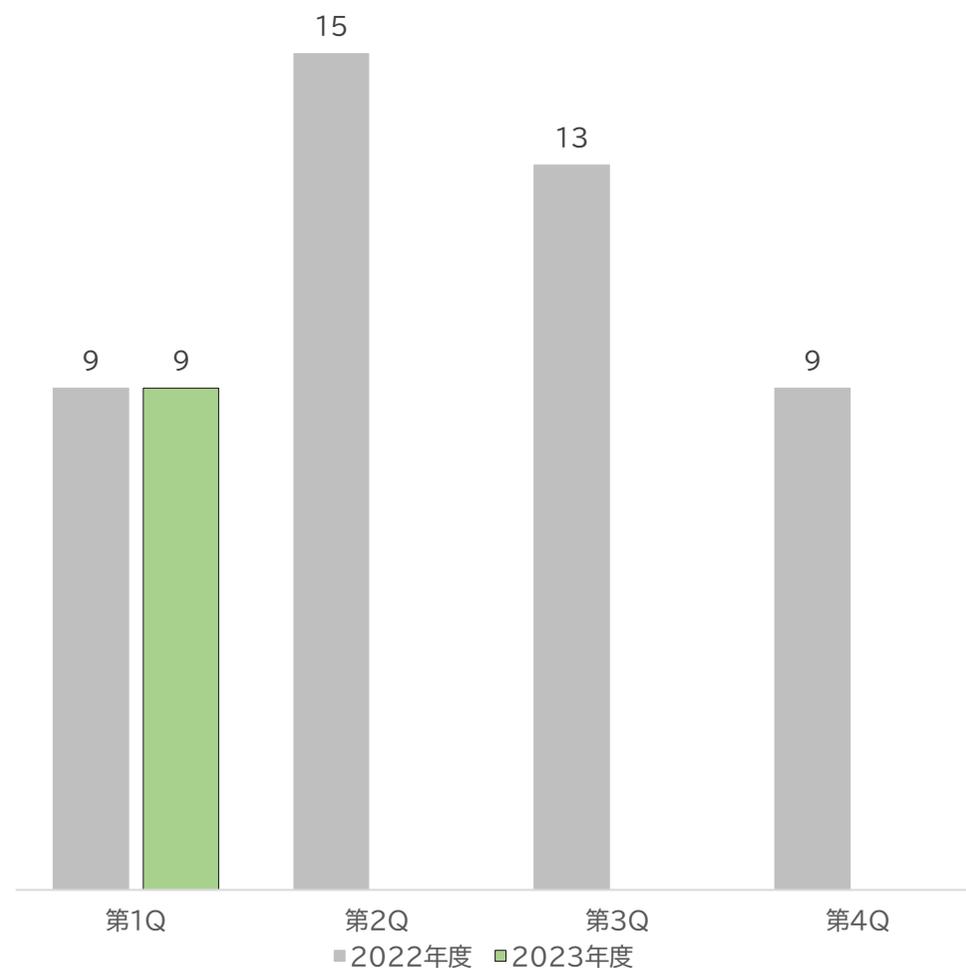
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は自動車生産台数の増加等により増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 活動量の増加等に伴う一般管理費の増加もあったが、営業利益は前年同期と比べて増益

## 業態別 営業利益 (億円)



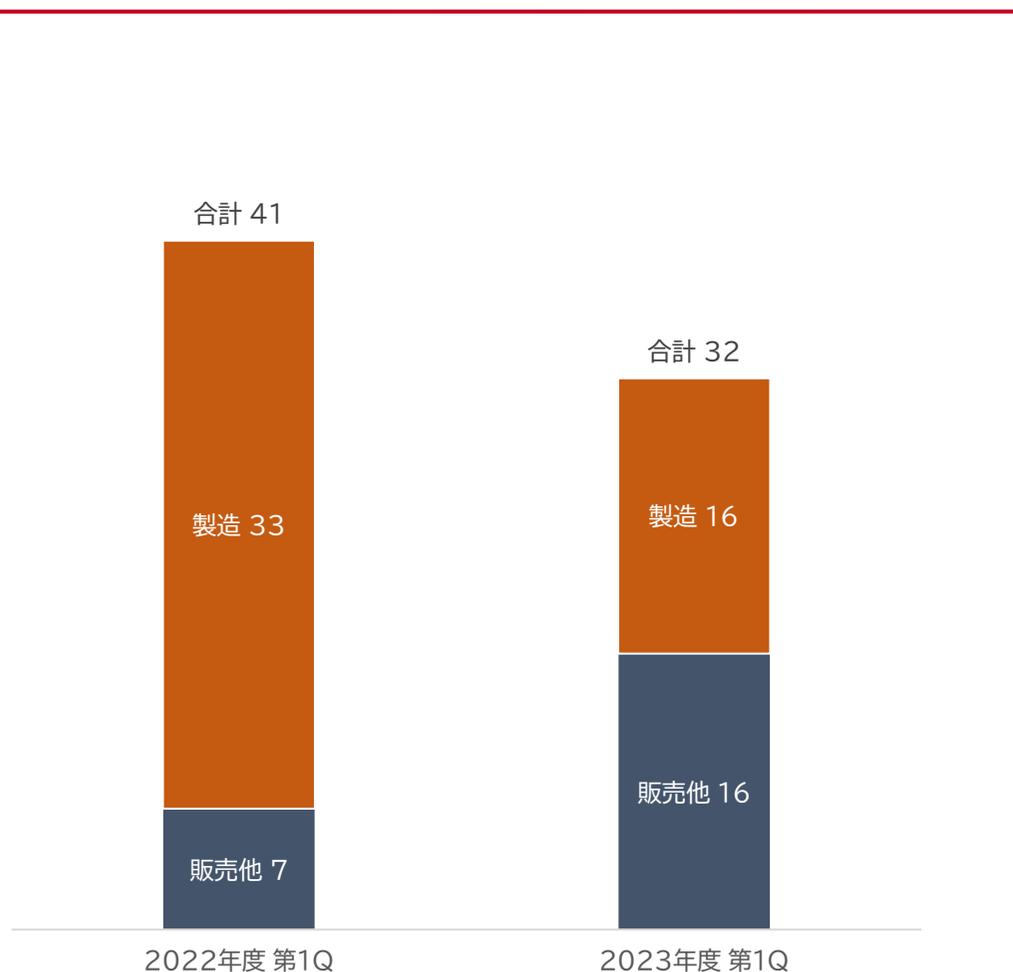
## 営業利益 四半期推移 (億円)



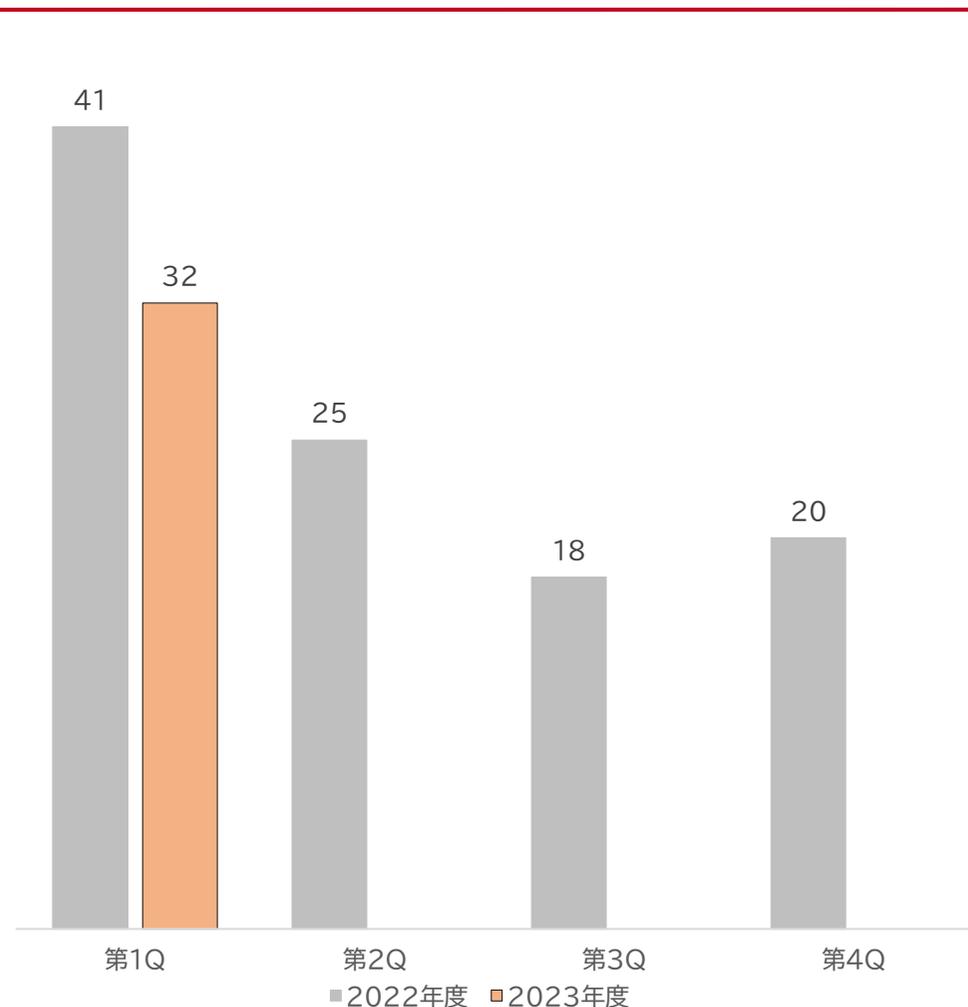
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループは市況下落により食品素材販売の収益性は低下したが、製造加工ビジネスはユタ新工場稼働もあり販売が増加
- ▶ 林原は値上げの浸透による収益性の回復に加え、主に海外での需要増加を受けてAA2G®を中心とした化粧品素材の販売が増加
- ▶ 林原は好調に推移したが、Prinovaグループの食品素材販売の収益性の低下や人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、全体として前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）



# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：半導体およびモバイル機器用途の変性エポキシ樹脂関連の販売が低調であったこと等から、減益
- ▶ 林原：値上げの浸透による収益性の改善、需要の回復を受けたAA2G<sup>®</sup>香粧品素材の販売好調により、増益
- ▶ Prinovaグループ：製造加工ビジネスにおける販売の増加はあったものの、市況下落による素材販売の収益性の低下や人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益

(単位:億円)

		2022年度 第1四半期	2023年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
ナガセケムテックス	売上高	72	57	△15	79%	252	23%
	売上総利益	22	17	△4	79%	71	24%
	営業利益	8	5	△3	60%	20	26%
林原	売上高	71	89	18	126%	367	24%
	売上総利益	28	34	6	122%	131	26%
	営業利益	11	16	4	142%	50	33%
	のれん等償却費	7	7	-	100%	30	25%
	償却費負担後営業利益	3	8	4	222%	19	45%
Prinova グループ	売上高	459	489	29	106%	2,035	24%
	売上総利益	85	80	△5	93%	367	22%
	営業利益	33	12	△20	38%	84	15%
	のれん等償却費	5	6	0	114%	24	25%
	償却費負担後営業利益	28	6	△21	24%	59	11%

# 連結貸借対照表

▶ 流動資産：縮減を進めてきた棚卸資産が減少し、運転資本も減少

▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、四半期純利益の計上、有価証券評価差額、為替換算調整勘定の増加等もあり増加

(単位:億円)

	2023年3月末	2023年6月末	増減額	主な増減
流動資産	5,301	5,336	35	
（現金及び預金）	408	424	15	
（売掛債権）	3,021	3,062	41	
（棚卸資産）	1,697	1,621	△75	
固定資産	2,325	2,411	85	
（投資有価証券）	697	767	70	
資産の部合計	7,626	7,748	121	
流動負債	2,862	2,902	40	短期借入金・CP△10
（買掛債務）	1,404	1,465	60	
固定負債	980	993	12	長期借入金△14、リース債務+12 繰延税金負債+11
負債の部合計	3,843	3,895	52	
株主資本	3,090	3,054	△36	自己株式△32
その他の包括利益累計額	586	686	100	有価証券評価差額+53、為替換算調整勘定+42
非支配株主持分	107	111	4	
純資産の部合計	3,783	3,852	68	
運転資本	3,313	3,218	△94	
自己資本比率	48.2%	48.3%	0.1ppt	
NET D/Eレシオ	0.38	0.37	△0.01	

# 2023年度 通期業績見通し(変更なし)

- ▶ 原材料、資源価格はロシアによるウクライナ侵攻の長期化等もあり、引続き高い水準での推移を前提
- ▶ 各国でのインフレ、その引締め策の影響を受けた個人消費、経済活動の抑制等、事業環境は引続き厳しい状況が続く見込み
- ▶ このような状況の下、2023年度の通期業績見通しについては、自動車関連ビジネスの堅調な推移、フード関連ビジネスの成長の継続、前年度は厳しい状況であった製造ビジネスの収益性回復等により増益を見込む
- ▶ 中期経営計画 **ACE 2.0** KGI・KPIの見直しは内容を精査中

(単位:億円)

	2022年度 実績	2023年度 見通し	増減額	前年比
売上高	9,128	9,580	451	105%
売上総利益	1,554	1,710	155	110%
<利益率>	17.0%	17.8%	+0.8ppt	—
販売費及び一般管理費	1,220	1,365	144	112%
営業利益	333	345	11	103%
経常利益	325	326	0	100%
親会社株主に帰属する当期純利益	236	240	3	102%
US\$レート (期中平均)	@ 135.5	@ 135.0		
RMBレート (期中平均)	@ 19.7	@ 20.0		

※レートが1円変動した場合の営業利益への影響額:US\$ 約1億円、RMB 約4億円

# 2023年度 セグメント別業績見通し(変更なし)

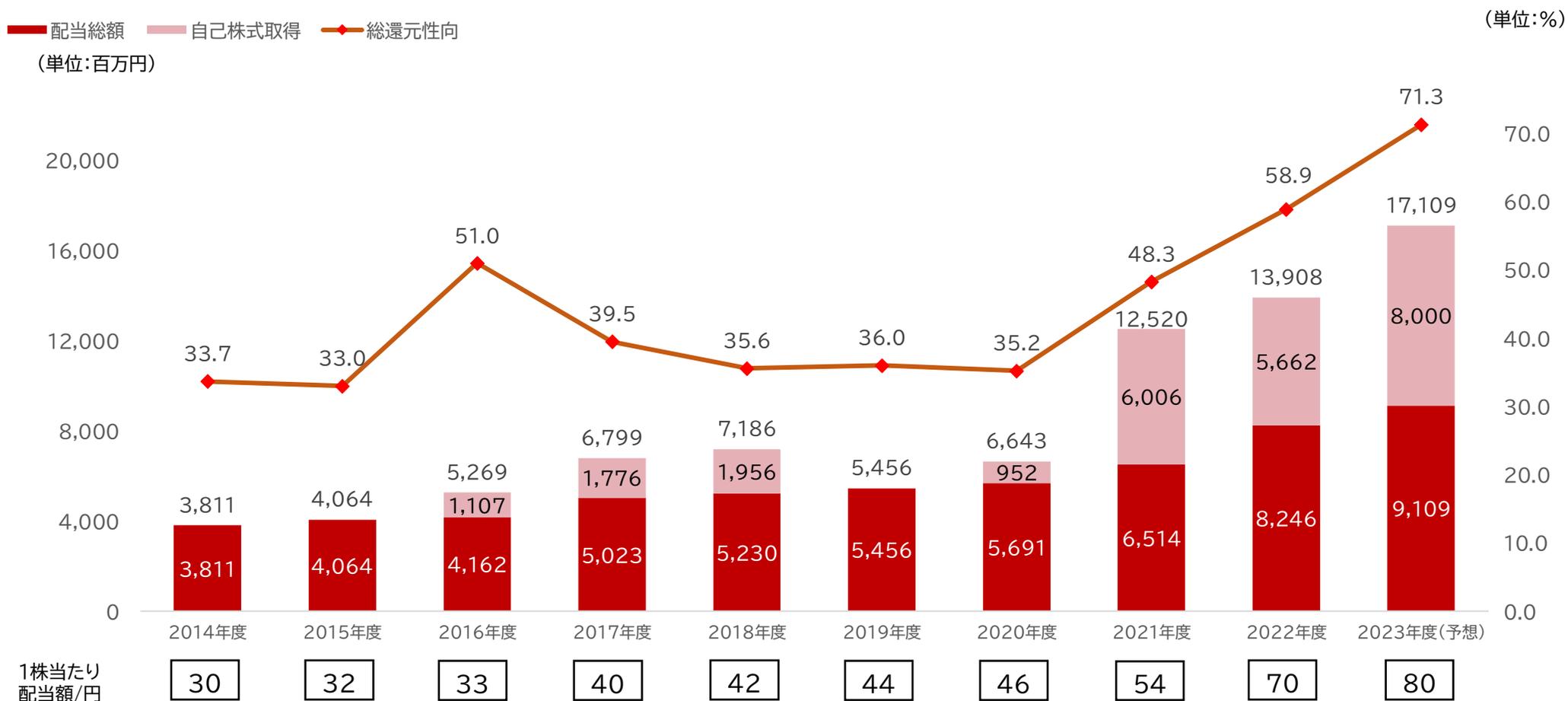
- ▶ 機能素材、モビリティは主に自動車生産台数の増加により引続き堅調を見込む
- ▶ 加工材料は主に中国におけるロックダウンの影響を受けて減少した樹脂販売数量の回復や、製造子会社の収益改善等により増益見込み
- ▶ 電子・エネルギーは主にモバイル機器向けの変性エポキシ樹脂の販売回復等により増益見込み
- ▶ 生活関連はPrinovaグループのスポーツニュートリションの製造受託のユタ新工場の本格稼働、林原の収益性回復等により増益見込み
- ▶ その他・全社は将来の収益獲得のための開発費用の増加や、退職給付の数理差異の償却費が増加する影響を見込む

(単位:億円)

		2022年度 実績	2023年度 見通し	増減額	前年比
機能素材	売上高	1,120	1,150	29	103%
	売上総利益	223	229	5	102%
	営業利益	88	89	0	101%
加工材料	売上高	2,650	2,700	49	102%
	売上総利益	317	343	25	108%
	営業利益	93	110	16	118%
電子・エネルギー	売上高	1,369	1,500	130	110%
	売上総利益	307	338	30	110%
	営業利益	92	106	13	114%
モビリティ	売上高	1,255	1,356	100	108%
	売上総利益	144	156	11	108%
	営業利益	47	51	3	106%
生活関連	売上高	2,731	2,873	141	105%
	売上総利益	559	643	83	115%
	営業利益	105	113	7	107%
その他・全社	売上高	0	1	0	122%
	売上総利益	1	1	△0	62%
	営業利益	-94	-124	△29	—
連結合計	売上高	9,128	9,580	451	105%
	売上総利益	1,554	1,710	155	110%
	営業利益	333	345	11	103%

# 株主還元状況

- ▶ 2023年度の1株当たり配当金は中間40円、期末40円の年間80円を予定(14期連続増配見通し)
- ▶ 2023年5月に決議した80億円の自己株式取得は予定通り進捗し、6月末時点での取得累計額は32億円(取得期間:2023年5月~12月予定)
- ▶ 増配および自己株式取得による還元拡充もあり、2023年度の総還元性向は71%となる見込み



※ 2023年度の期末配当金は、2024年6月開催予定の第109回定時株主総会に附議予定です。

# **NAGASE** | Delivering next.

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2023年8月3日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。